

令和 8 年度第 1 回大船渡市地域助け合い協議会 報告書

開催日時	令和 8 年 7 月 30 日（木） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 55 分
場所	総合福祉センター 大会議室
出席者	○委員 16 名 船山良忠、紀室浩、佐藤高廣、志田俊一、田村敏夫、新沼良治、村上芳春、鈴木健悦、新沼秀人、菅原和子、星正和、菅野勝子、崎山美知枝、笹野淳子、坂本奈津江、上関優、村上トメ子 ※ 欠席者 3 名（大和田洋太郎、村上雄一、木川田大典）
事務局	○ 8 名 【包括】藤原室長、佐々木次長、江刺主幹、中井係長、村上（亮）係長 【長寿】村上（智）係長
内容	・あいさつ ・情報共有 （1）令和 7 年度からの事業実施状況について （2）その他 ・意見交換 （1）今後の大船渡市地域包括ケアシステムのあり方について （2）その他 ・その他
記録	地域包括ケア推進室 係長 村上 亮

1 協議会開会（13：30） 進行：佐々木次長

- ・会議成立の報告と職員紹介

2 あいさつ

- ・村上会長より挨拶

日頃から、地域における助け合い活動をはじめ、当市の地域包括ケアシステムの進展のため、それぞれの立場で積極的に取り組んでいただき感謝申し上げます。

当市では、地域包括ケアシステムの取組を平成 27 年から開始し、介護保険事業の展開や各地区の助け合い協議会の設立など経て、今に至っている。大規模山林火災の際にも、助け合いの精神が市民一人ひとりに根づいていることが感じられ、これまでの取組の成果と捉えている。

一方で、地域包括ケアシステムの稼働から 10 年以上が経ち、一人暮らし高齢者の増加、介護人材や地域の担い手不足など、システムを支える基盤が弱まりつつある。

本日は、こうした情勢を踏まえつつ、次の 10 年、20 年先を見据え、これからの地域包括ケアシステムのあり方について、委員の皆様と意見交換を行いたいので、よろしくお願いしたい。

3 情報共有

- ・設置要綱の規定により村上会長が議長となり進行。
- ・（1）令和 7 年度からの事業実施状況について、村上（亮）係長が説明
⇒質疑等なし
- ・（2）その他
⇒発言等なし

4 意見交換

- ・ (1) 今後の大船渡市地域包括ケアシステムのあり方について、江刺主幹が説明

〈鈴木健悦委員〉

地区ごとの活動の違いは課題ではなく、地域の特色・成果として評価すべき。

⇒ 〈江刺主幹〉

地区ごとの工夫や活動は高く評価している。一方で、生活支援まで十分につながっていない部分は課題であり、表現が不十分だった。

〈新沼良治委員〉

助け合い協議会の本来の目的は介護予防であった。活動は地区に委ねられており、強制されるものではないとの認識である。助け合い協議会の目的の整理をお願いしたい。

〈新沼秀人委員〉

認知症や医療・介護連携については考えたこともなく、日常生活での困りごとを共助で解決するシステムを構築すべきという認識でいた。

⇒ 〈江刺主幹〉

介護予防は現在も最重要の目的。その上で、高齢者を取り巻く課題が広がっており、今後は支援対象や役割を少しずつ広げていく必要があると考えている。市として今後の方向性を検討する。

〈鈴木健悦委員〉

生活支援コーディネーターの負担が大きすぎる。越喜来地区では負担を軽減するために地域の見守り活動を強化しようと考えている。市には、見守りに関わる人への支援や金銭的なバックアップを検討してほしい。

⇒ 〈江刺主幹〉

市内部で共有し、支援策について検討する。

〈上関優委員〉

生活支援コーディネーターの本来の役割や育成、研修、関係機関との連携が以前より弱くなっている。研修や支援体制を充実させてほしい。

⇒ 〈江刺主幹〉

大船渡市の取組は先進的だったが、社会情勢の変化で役割が高度化している。今後は研修の機会を設け、地域包括ケアのあり方を研修するところから始めていきたい。

〈鈴木健悦委員〉

生活支援コーディネーター制度が本当に成果を上げているのか疑問。支援体制も十分ではない。

⇒ 〈江刺主幹〉

課題認識は事務局も同じである。地区や生活支援コーディネーターの責任ではなく、市の進め方と社会情勢の変化によるものであり、改善に向けて見直したい。

〈新沼良治委員〉

本来行政がやるべき業務を公民館が行ってきたが、行政の仕事は行政がやるべきだと思う。生活支援コーディネーターは社会福祉協議会の職員が担当することが多く、大船渡市はなぜ地区住民が担っているのか疑問に思う。

⇒ 〈江刺主幹〉

生活支援コーディネーターには高齢者の生活支援を担ってもらいたい。これまでの活動を否定するものではなく、今後 10～20 年を見据えて、みんなで良い方法を考えてきたい。

〈鈴木健悦委員〉

生活支援コーディネーターを否定しているのではなく、地域の見守り活動と連携しながら今後も継続・評価していきたい。

〈上関優委員〉

第 1 層生活支援コーディネーターを復活させ、第 2 層との連携・相談体制を整えてほしい。

⇒ 〈江刺主幹〉

第 1 層コーディネーターのあり方について、過去と現在の体制を比較しながら検討する。

〈船山良忠委員〉

健康寿命の延伸を最優先に考え、インターバル速歩など健康づくりを推進すべきだと思う。

⇒ 〈江刺主幹〉

健康寿命の延伸は最重要課題であり、しっかりと取り組んでいきたい。その上で生活支援にも地域と連携して取り組みたい。

・ (2) その他

⇒発言等なし

5 その他

〈上関優委員〉

さわやか福祉財団主催の「いきがい・助け合いオンラインフェスタ」がオンラインで開催される。ぜひ参加していただきたい。

〈村上トメ子委員〉

一人暮らしや老老介護をする男性高齢者が増えている。男性が地域活動に参加しやすい場づくりや支援を検討してほしい。また、支援する側に高齢化や人材不足などの課題があるので、地域でもあり方を検討してほしい。

6 協議会閉会 (14 : 55)